

# 益城町のさらなる躍進をめざして

益城町長 佐永幸三郎

新年、明けましておめでとうございます。

町民の皆様方におかれましては、輝かしい、平成26年の新春を、お健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

旧年中は、町政の様々な分野におきまして、町民の皆様の暖かい御理解と御協力並びに御支援を賜り、大変有難うございました。

お蔭様で、一歩ずつではありますが、着実に町政の推進ができたのではないかと思います。

さて、本町では、「第五次総合計画基本構想」を基に、「日本一住みよいまち」の実現に向け、さまざまな取り組みを行っております。特に、日々いきいきと健やかに暮らすことは私たちの願いであり、そのため、健康・福祉部門の充実を図るべく計画した保健福祉センターも児童館や公民館広安分館を併設し、昨年の5月に完成をしました。愛称も「はびねす」と決定し、各種検診や健康づくり・予防接種の場として日々事業を実施しております。

また、子育て対策として、平成22年から実施している中学生までの子ども医療費無料化に加え、昨年度は給食費の一部助成や広安西小学校の増設、中学校における補助職員の追加配置、待機児童緊急支援助成事業、今年度には広崎保育園、来年度には空港保育園の開所を予定しております。

さらに、高齢者支援対策として、老人ホームの民間移譲、介護型の各種施設、グループホーム棟の開所、住宅型有料老人ホームの開所などがあります。

特に平成23年から定住促進補助金制度を実施し、飯野・福田校区に計画中を含め200区画以上が整備販売される予定です。

文化面では矢嶋帽子生誕180周年記念事業

として、記念式典やゆかりの地を訪ね歩くウォーキングなども実施いたしました。

以上のように、健康福祉対策の充実、教育文化の振興など一定の成果を上げることができましたが、これに満足することなく、更なる工夫と努力を重ね事業の推進を図っていききたいと考えております。

一方、わが国の社会経済の状況に目を向けてみますと、アベノミクスにより景気が上向いてきていますが、地方の経済にとってはその実感に乏しく依然として、厳しい状況が続いているのではないかと思います。

また、昨今の少子高齢化、地方分権の急速な進展に伴い、ますます複雑多様化する行政ニーズに的確に対応するためには、住民に最も身近な市町村の

果たす役割がますます重要になって行くものと思います。

そのような中、町民お一人

お一人が主役であるという認識のもと、子どもからお年寄りまで、すべての人々が、幸せを実感でき、明るく、楽しく、将来に向かって希望の持てる町、そして益城町に住んで本当に良かったと思える町、このような町を実現するため、本年も全力を傾けて町政運営にあたっていきたいと心新たに致しております。

町民の皆様方にも、益城町のさらなる躍進のためにお力添えをいただきまますようお願い申し上げますと共に、本年一年が皆様方にとって、ご健康で幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

